

学校 番号	23	学校名	更級農業高等学校
----------	----	-----	----------

令和元年度学校評議員活用状況報告書

第 1 回学校評議員会 【令和元年6月18日（火）実施】

1 実施概要（協議研究事項を含む）

- ・ 授業参観
- ・ 学校長挨拶
- ・ 学校よりの報告（学校の現状等・学校評価・生徒指導・進路指導・生徒会活動・農業教育・高校改革～夢に挑戦する学び～について）
- ・ 意見交換

2 今回の実施に当たって工夫したこと

- ・ 学校評議員会に先立ち普通科および専門教科の授業を公開し、学校の様子や教育内容等を知っていただく機会を設けた。
- ・ 意見交換の時間を増やすため、学校からの説明を簡略にするよう努めた。
- ・ 「学びの改革」に関連して現在の動きと今後の予定及び本校の現状等について学校長から説明し、本校への期待や将来のビジョンに関するご意見をいただくようお願いした。

3 今回話題になった事項で特徴的なものとその概要

- ・ 本校では就職対策として企業と学校との連携を密にするように努めており、あらかじめ職員が何度か企業訪問を行い、可能な範囲で採用予定見込数を事前に確認させていただいている。生徒の就職試験受験先決定については、企業からの情報を参考に、校内で過度に競合することのないように調整している。その結果、採用試験の第一次分で9割以上の生徒が内定をいただいている。ほとんどの生徒が地元志向で、県外企業からの求人はあるが、実際に就職した生徒は数名にとどまっている。
- ・ 就職試験の志望先については、基本的には生徒本人と保護者の意向に沿って決定していくが、事前に生徒との面談を繰り返してから保護者を交えて三者面談を実施することによって、両者の希望が一致するように取り計らっている。
- ・ 農業高校であるが、農業後継者として卒業後すぐに就農する生徒はいない状況。実際に農業を営んでいる家庭の生徒は約1割足らずで、生徒の進路希望は多様化している。ただし、非農家の子供であっても農業をやりたいという生徒は増えており、昨年度も2名が農業法人に就職した。県内にある農業法人数が1,000を超えており、農地や資金がなくても就農の機会はある。ただし、農業法人で福利厚生がしっかりしているところは3割程度であったり、就職に対して保護者の理解度を高める必要があるなど、就農数を増やすには改善されるべき課題がある。

- ・昨年度の更農祭で就農ブースを設け、生徒が実際に農業法人の方から説明をお聞きするといった企画があったが、今年もぜひ実施していただきたい。生徒にも PR をして、多くの生徒の参加を促してほしい。農業後継者不足で周辺地域には耕作放棄地の問題があり、それらの有効活用のためにも農業法人で農業を学んでから独立するといった一定の道筋が示されるとよいと考える。
- ・イメージしていた農業高校とは違い、環境から食品に至るまで生徒が様々なことを幅広く学んでいることに驚かされた。地域の暮らしや健康を守っていくという点で農業は医療とも共通点がある。
- ・就業体験に来た生徒達は明確な目標を持って参加しており、メモを取って話を聞き質問するといった様子から学ぶ姿勢が伺われた。早目のキャリア支援をとおして、自分で考えて学んでいくことが教育されていると感じた。

4 成果と課題（学校評議員会以外の活用状況を含む）

- ・「学びの改革」において新たな学びへの質的転換が推進される中で、本校においては生徒の実態や地域課題を踏まえ、産業界で活躍できる人材の育成を使命として、教育内容や教育活動の一層の充実と改善を図り、専門高校としての優位性を更に向上させていくことが求められている。
- ・生徒の学びに対する姿勢の改善に焦点を当て、1人ひとりが明確な目的意識を持ち、主体的に学ぶ姿勢を確立できるようにするために、組織的な授業改善に向けた取り組みを進めていくことが必要である。